

ふりかえ朗くんを活用した深い学びに向けて

<ふりかえ朗くんとは>

動画を記録し、デブリーフィングを行うことで「気づき」を共有するための支援システムです。撮影用カメラ、スピーカーを使用して演習の様子を共有し、「気づき」、「考え」、「理解する」学習につなげることができます。シミュレータモデルと連動させることで応用的なシミュレーションを行い、確かな臨床判断能力の育成につなげていくことができます。

基礎看護3年

<授業実践内容>

シミュレーション学習として「発熱のある患者の観察」と「発熱のある患者に対する看護」の授業を3時間ずつ行った。ふりかえ朗くんを使用し、患者設定をした上で患者の対応を行い、モニター画面でリフレクションを行いながら授業を展開しました。



<生徒の様子>

患者の観察や対応方法について、大型モニターで振り返りながら全体でリフレクションを行うことで、不足している点のみでなく、できている点についても理解できた。その場で何度も動画で振り返ることができるため、理解しやすい様子でした。

<授業担当者の感想>

実践した看護技術について視覚的教材を活用しながらリフレクションや練習が行えたため、生徒の反応も良好であった。大型画面を使用し、全体でリフレクションを行うことにより、一人一人の気づきや知識が深まった。客観的に自分の対応方法を評価することで課題発見にもつながった生徒が多かったです。



在宅看護技術 専攻科 1 年生

＜授業実践内容＞

フィジカルアセスメントの意義と必要性について理解し、循環器のフィジカルアセスメントに関連する技術や12誘導心電図を正しく装着する技術を学習しました。



＜生徒の様子＞

胸痛を訴える患者の観察やその対応について、モニターで振り返りました。視覚的に捉えづらいアセスメントの視点を動画で振り返ることで理解に繋がりました。



＜授業担当者の感想＞

視覚的なリフレクションは、客観的かつ多角的に自分の技術等を評価できるため、技術演習では特に活用していきたい。

実技評価 専攻科 2 年生

＜授業実践内容＞

「急変時の対応」～急変の前触れサインはバイタルサイン～と題し授業を展開しました。目的を持って患者の理解、状態把握に努めていくために、急変時にはバイタルサインがどうなるのかという講義を行い、抗生剤の投与後の急変対応についてふりかえ郎君を使用し授業を行いました。



＜生徒の様子＞

講義から時間を置かずにシミュレーションを行ったことで気づくことが多くあり、ワークシートに気づきの記入が多く見られました。

デブリーフィングの際にも発言が多く聞かれ、臨床推論することとはどういうことか理解につながった学生が多かったです。

＜授業担当者の感想＞

臨床推論はこれから看護師として臨床の場で働くうえで必要な能力となります。映像を見ながらデブリーフィングを行うことや、その場面をしっかり振り返ることは気づきを助けることにつながっていきます。今後も活用場面を考え活用することで記憶に残る授業展開を心掛けていきたいです。



生活支援技術 I 医療的ケア 福祉科3・2年生

<授業実践内容>

医療的ケアの事例からシミュレーション学習を3年生と2年生の合同授業を実践しました。縦割りのグループワークからより多くの気づきを共有しました。事例は、経管栄養を実施する利用者の訪室時の観察です。いつもと違う様子にどこまで気づけるか、また、気づくための知識や技術を体験しました。



<生徒の様子>

体験することで、見落とししやすい観察や利用者の安全を第一に考えた対応について、多くの気づきがありました。これまでの知識をどう使えばよいのか2年生と共有して学ぶことができました。(3年)

3年生の知識の多さと自分たちにはない考え方を学ぶことができました。(2年)



<授業担当者の感想>

受け持つ利用者の部屋に訪室し挨拶するところから体験しました。シミュレーターが咳や息切れをする等のリアルな反応に、その場で判断し対応する難しさや重要性を学ぶことができました。

全員で映像を見ながら1つ1つの行動や判断に根拠を繋げ、思考を深めることができました。



眠りスキャン(みまもる君)を活用した深い学びに向けて

<眠りスキャン(みまもる君)とは>

マットレスの下に敷いて、体動(寝返り、呼吸、心拍など)を測定することができる装置です。身体に何も装着する必要がないので、睡眠を阻害せず、生活を妨げることなく、長期間の睡眠、覚醒リズムを把握することができます。睡眠状態や起床、起き上がり、離床・在床などを把握でき、介護計画の改善や介護職員の業務負担減、利用者の方の生活習慣の改善などに役立てることができます。また、その情報はリアルタイムで管理用 PC に送信され、離れたところから、離床、起床、就寝など使用者の様子を把握することができます。

福祉情報 福祉科3年生

<授業実践内容>

3年2組の福祉情報「介護業務支援ソフトの活用」の授業の一環として、「見まもる君(眠りスキャン)」の接続、起動、PCでの観察を実演しました。

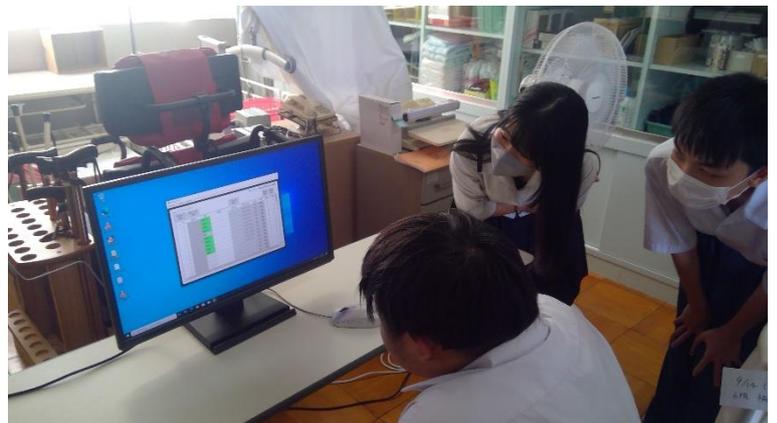


<生徒の様子>

3年生で実習経験を積み重ねているためか、「見まもる君(眠りスキャン)」のねらいや、効果をすばやく理解し、興味を持って実践していました。

<授業担当者の感想>

職場において様々な ICT 機器を活用するに当たり、まずは色々を使ってみる事が大事だと思いました。このような細かな経験の積み重ねで、将来も新しい機器に物怖じせず取り組んでほしいと思いました。



介護過程 福祉科3年生

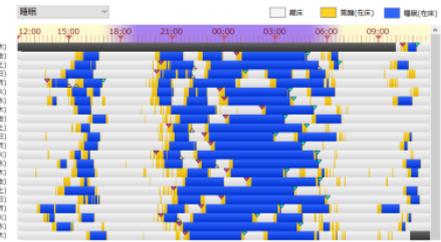
<授業実践内容>

睡眠に関するところとからだのしくみや高齢者に多い睡眠障害と疾患について学習したのち、「眠りSCAN」に記録された睡眠日誌からデータを読み取り、利用者の状況に応じた安眠のための支援について考えました。



- ♣ 「眠りSCAN」を活用した「より効率的な介護」～睡眠の分析から支援を考えよう～
- ◆ 安眠のための支援について考えよう～介護老人保健施設に入所するOさんの事例～

1) 『睡眠日誌』からデータを読み取り、分析する（睡眠分析）



① データから読み取れること、わかること

《あなたの意見》

《他者の意見》

《他者の意見を聞いて気づいたことなど》

② 考えられること、推測されること ☆推測される睡眠障害【無・有：】

《あなたの考え》

《他者の考え》

《他者の考えを聞いて気づいたことなど》

2) 睡眠分析をもとに、安眠のための支援について考える

《あなたの考え》

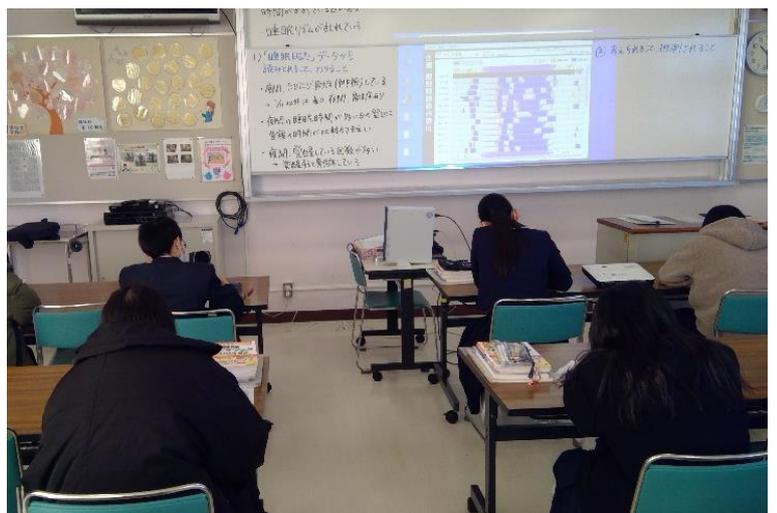
《他者の考え》

<授業担当者の感想>

実習施設の協力を得て、実際に睡眠障害のある利用者の方のデータを活用することができたため、より実践的な学習になったと思います。今後は、離れたところから離床、起床等の様子を把握することができる機能を活用した授業も検討していきたいです。

<生徒の様子>

睡眠、覚醒に関する情報だけでなく、睡眠中の呼吸数、心拍数、日中の離床・在床などさまざまな情報を関連づけて利用者の状態を理解し、安眠のための支援を多角的に考えることができていました。



生徒用タブレットを活用した深い学びに向けて

言語文化

<授業実践内容>

1年生の教材「伊勢物語」を題材に平安時代の結婚観について考察し、ロイロノートでまとめるグループ学習を行いました。



<生徒の様子>

本校は女子生徒が多いため、恋愛観や結婚観についても興味を持って主体的に発言しようとする生徒が多くみられました。

<授業担当者の感想>

単元のまとめとして、部分的にロイロノートを活用した授業を行うと、生徒も新鮮に感じて、普段よりも沢山発言しようとしてくれました。



生物基礎

<授業実践内容>

2年2組の生物基礎の授業の一環として、スマホを用いた校内の生物観察と図鑑の作成を行いました。

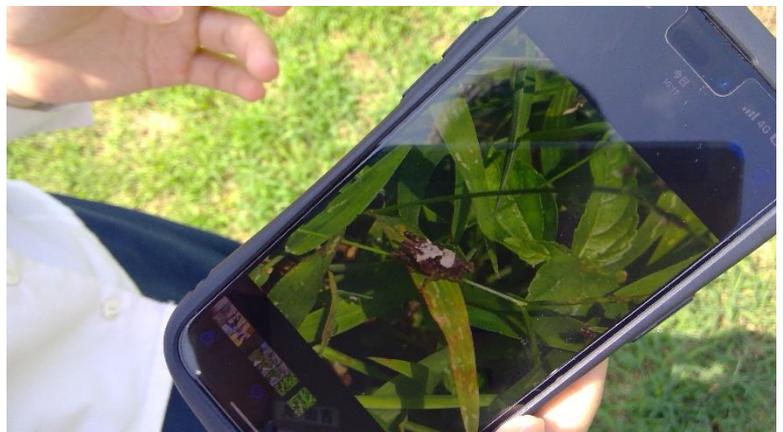


<生徒の様子>

積極的に参加し、生物を発見、補足していました。また、PCと違い普段から使い慣れている機器のため手際も良かったです。

<授業担当者の感想>

発見した生物を、撮影、検索、メモ(画像への文字入れ)までその場ですぐでき、生徒にとっても手軽でした。PCにこだわらず、使える機器を積極的に利用していくのが良いと感じました。



日本史 A

<授業実践内容>

ロイロノートを活用して小テストを行った。また、テキストに図表から読み取ったことを文でまとめて提出してもらい、他者の解答との比較をしました。



<生徒の様子>

これまでに他の授業でもロイロノートを使用していたため、スムーズに操作できていました。小テストの全員分の解答が自動で集計され、正答率の高い問題、低い問題がわかり、紙媒体で小テストを行ったときよりも意欲的に振り返りをしていました。



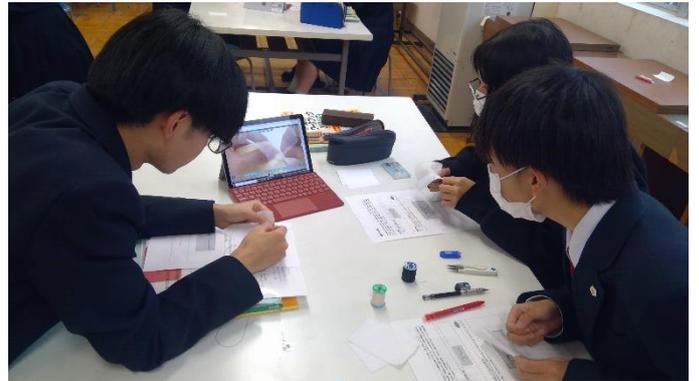
<授業担当者の感想>

ICT を使う時には、教科書やノート、プリント等、紙媒体の教材と組み合わせることが大切だと感じました。ICTの良さ、紙媒体の良さ、それぞれを生かせる授業展開の構築が不可欠です。また、操作に生徒も教員も慣れていないと、授業が円滑にすすまなくなってしまうので、日頃から積極的に ICT を活用することが大事だと思いました。

家庭総合

＜授業実践内容＞

3年2組の家庭総合の授業で、手縫いを行いました。縫い方を師範で見せてから、配信した動画で適宜確認させて被服実習を行いました。



＜生徒の様子＞

必要に応じて動画で縫い方を確認しており、手順が分からず手が止まっている様子はありませんでした。出来栄も良く意欲的に取り組んでいました。

＜授業担当者の感想＞

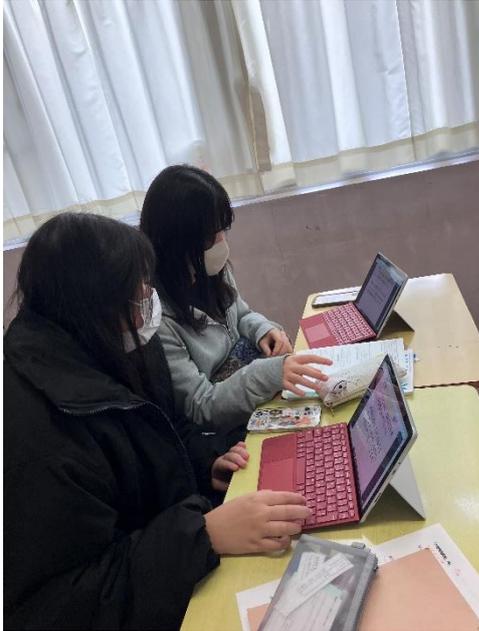
今回 ICT を実習に取り入れることで習得率、作業の効率が上がり、教員の負担軽減にもなりました。全員が分からないところをすぐに確認できるような ICT の活用方法を今後も検討していきたいです。



英語表現 I

<授業実践内容>

ロイノートを使って課題を提示、提出してもらいました。授業では長めの英文をタブレットで、家庭では短めの英文をスマホで実践しました。



<生徒の様子>

文字を書くよりも、キーボードで打つ方がそれほど違和感なく、取り組んでいました。



<授業担当者の感想>

当日学習した内容を、少しでも復習すれば定着するのにも有効かと思います。気軽さが良いです。

体育

＜授業実践内容＞

1年2組の体育(球技・卓球)の授業の一環で、タブレット端末による動画撮影とその分析を実施しました。ドライブという技術の習得にあたって、フォームの撮影をし、グループで動画を参考に改善点を話し合った後に、再度練習・撮影を行いました。授業の最後には Before と After を比較しました。



＜生徒の様子＞

自分の感覚と実際の動きにはギャップがあることが理解できた様子でした。また、「自分の Before と After の比較」や「自分と他者との比較」などから、生徒個々の改善点が明確になりました。その結果、ドライブのフォームが修正され、スピードや回転量に改善がみられました。日頃は、教員の言葉や師範、友人からのアドバイスにおいてフィードバックを得ていたこともあり、ICT から資格情報を得ることは新鮮に感じている様子でした。

＜授業担当者の感想＞

自分の動きを客観的な視点から想像することは非常に難しく、それを可能にできることが ICT の良さの1つだと感じます。ただ、体育授業においては運動量の確保が求められます。いかに短時間で効率よく ICT を活用できるかが課題と感じました。また、運動が伴うため、ICT 機器の損壊を予防することも必要です。以上の課題と向き合いながら、生徒の主体的・対話的で深い学びにとって最適な方法を今後も検討していきたい。



基礎看護2年

＜授業実践内容＞

創傷の治癒過程における基本的な知識、創傷処置、管理についての講義を行い、演習では三角巾法を行いました。



＜生徒の様子＞

災害時に使用する三角巾法について、積極的に学ぼうとする姿勢がみられました。創傷の分類について、パワーポイントで写真を映して確認しました。イラストと写真の違いを確認することで、創傷の特徴を捉えることができました。

＜授業担当者の感想＞

事前課題としてロイロノートを活用し、演習の手技を視聴してもらっています。そのため、以前と比べて演習の手技をイメージし、取り組むことができます。質問も具体的な内容が多く、実習に自ら取り組む姿勢が育っていると感じました。

